

器具器械 21 内臓機能検査用器具

脳波計

「脳波計 EEG-1000シリーズ ニューロファックス」の付属品

脳波検査支援プログラム QP-150A

形状・構造等

本品は以下のもの構成されます。
指定された装置にCD-ROM内のプログラムをインストールして使用します。

- インストールディスク CD-ROM

使用可能製品

販売名	医療用具承認番号
脳波計EEG-1000シリーズ ニューロファックス	21000BZZ00604000

性能・使用目的**使用目的**

本ソフトウェアは、脳波計EEG-1000シリーズおよび脳波データワークステーションDAE-1100で動作する脳波検査支援プログラムです。

本ソフトウェアの各機能を使用して、脳波の判読やてんかんの脳波検査を支援します。

本ソフトウェアをインストールすることによって追加される機能は以下の通りです。

機能名	動作環境
マルチスコープ機能 (複数検査同時レビュー機能)	EEG1000シリーズおよび DAE-1100上
電位マップ表示機能	再生プログラム上
イメージ波形マップ表示機能	再生プログラム上
スパイク / 発作検出機能	検出：測定プログラムまたは 再生プログラム上 表示(レビュー)： 再生プログラム上

操作方法または使用方法等(用法・用量を含む)

詳細は別途用意されている取扱説明書を参照してください。

スパイク / 発作検出機能**スパイク / 発作検出**

設定した条件でスパイク波および発作波をイベント検出し、脳波データと共に保存します。また、検出時に通知画面や音で知らせることもできます。

1. 測定時に検出する場合は、測定プログラムを起動してファイリングを開始します。
再生時に検出する場合は、再生プログラムを起動して検出する脳波ファイルを開きます。
2. オプションメニューから“SzAck”を選択し、スパイク / 発作検出機能を起動します。
3. 検出条件を設定します。
また、必要に応じて通知設定を行います。
4. 検出を開始します。
5. 検出が終了したら、スパイク発作検出画面(“SzAck”)のファイルメニューから“終了”を選択し、スパイク / 発作検出機能を終了します。

スパイク / 発作レビュー

本ソフトウェアのスパイク / 発作検出機能でイベント検出されたスパイク波および発作波を再生します。

時間ヒストグラム表示やスパイク波の加算平均表示などで詳細に表示・分析が行えます。

1. 再生プログラムを起動して脳波ファイルを開きます。
2. ツールバーから「スパイク」スイッチまたは「発作」スイッチをクリックして「加算波形」ウィンドウと「スパイクリストボックス」または「発作リストボックス」を開きます。
3. リストボックスよりスパイクイベントを複数選択すると、「加算波形」ウィンドウに加算平均波形を表示します。
またリストボックスより発作イベントを選択すると、そのときの脳波に再生画面の波形表示がジャンプします。
4. 終了するときは、ツールバーより現在表示中の波形と同じ波形のスイッチ(「スパイク」または「発作」)をクリックします。
時間ヒストグラム表示を行うときは、ツールバーの「時間ヒストグラム」スイッチをクリックして「時間ヒストグラム」ウィンドウを開きます。終了するときは再度「時間ヒストグラム」スイッチをクリックします。

電位マップ表示機能・イメージ波形マップ表示機能

脳のイメージ図や画像上に自在に電極を配置設定することができ、実際の電極装着位置に対応した詳細なマップを表示できます。また、頭皮脳波だけでなく頭蓋内脳波もマップ表示できます。再生画面に表示中のスパイク波(加算平均波形含む)および発作波、マルチスコープ画面から選択した脳波の実波形(EEGスコープ画面の脳波)などについてもマップ表示できます。

1. ツールバーの「電位マップ」スイッチまたは「イメージ波形マップ」スイッチをクリックすると、再生画面の上にマップウィンドウが開き、再生画面のカーソル位置の脳波がマップ表示されます。
2. 電極位置設定画面やマップ表示設定などでマップの表示方法の各種設定を行います。
3. ツールバーより、現在表示中のマップと同じマップのスイッチをクリックすると、マップ機能が終了します。

マルチスコープ機能(複数検査同時レビュー機能)

ネットワーク接続した複数の脳波計の測定中の脳波を一画面にDSA表示します。また脳波計で発生したイベントを通知画面や音で知らせます。

1. EEG1000ウィンドウの“EegMultiScope”アイコンをダブルクリックすると、マルチスコープ機能と再生プログラムのEEGスコープ機能が起動します。
2. マルチスコープ設定画面で脳波計を選択し、マルチスコープ画面で脳波を見るための設定をします。
また必要に応じてイベント通知設定やセキュリティ設定を行います。
3. 終了するときは、マルチスコープ画面のファイルメニューの「終了」を選択します。

(次ページに「使用上の注意」を記載しています。)

使用上の注意

重要な基本的注意

- 本ソフトウェアが正常にインストールできること、および正常に動作することは、DELL社製「Optiplex GX240」以降のパソコンを使用した弊社製脳波計EEG-1100/1514/1518/1524/1714、脳波データワークステーションDAE-1100でのみ確認されています。その他の装置およびシステムでの使用については、弊社では責任を負えません。
- 本ソフトウェアによる処理結果は記録されたデータのすべてを表していません。診断および各種研究には、得られた結果やイメージのほか、臨床所見、他の検査結果、および他のソフトウェアによる処理結果などを合わせて、総合的に判断する必要があります。
本ソフトウェアによって得られた結果やイメージに基づきいかなる判断および決定も、本ソフトウェアを使用する方々の責任において行ってください。お使いいただいた方々の判断および決定に対して、弊社では責任を負えません。
- マルチスコープ機能およびスパイク・発作検出機能の表示画面やイベント通知機能を、生体情報モニタやセントラルモニタの代わりに使用しないでください。
画面の表示やイベントの通知には時間遅れがあります。本ソフトウェアを生体情報モニタとして使用すると患者の状況を誤って判断することがあります。
生体情報のモニタリングは、モニタ専用機を使用してください。
- マルチスコープ機能を使用する装置(DAE-1100)にネットワーク接続している脳波計のネットワークの設定をむやみに変更しないでください。ネットワーク接続後に脳波計側でネットワークの設定を変更すると、その脳波計のデータをマルチスコープ画面に取り込めなくなります。
- DAE-1100でお知らせイベントに設定したイベント名が、画面表示中の脳波計のイベント名と異なる場合には、イベントの通知が行えません。お知らせイベントの設定の際には、脳波計とDAE-1100のイベント名が完全に一致していることを確認してください。またDAE-1100と脳波計の環境設定のイベントリストは一致させておくことをお勧めします。